

ルクセンブルク経済・金融情勢（2020年1月）

1 統計関連

- 2019年12月のインフレ率は年率1.69%（前月1.21%）（1月10日付統計局プレスリリース）
- 2019年12月の失業率は5.4%（前月5.4%，前年同月5.1%）（1月20日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 2019年の当国の気候は、例年よりも乾燥し、暖かかったことから農家やワイン農家にとっての被害は甚大である。降雨量については、当国北部は、前年平均よりも最大で136mm少ないところがあった一方で、南部は降水量が多く、地下水の排水ができない状態となっていた。また、気温については1981年から2010年までの平均より1°C高くなり、Steinsel 市では1838年以来最高気温となる40.8°Cが観測された。（1月2日付 Luxembourg Times 紙，Chronicle.lu 電子版，及び1月6日付 Luxemburger Work 紙）
- 当国財政の主な財源は個人の所得税である。2018年では、個人による納税のみで、当国政府の収入の33%（55億ユーロ）となった。この税収は、2010年から2016年では年率8%で増加しているが、これは当国の雇用が増加したことによる税収の増加だけでなく、個人の収入の平均額も年4.5%で増加していることや累進課税制度の税率が上がったことも原因に挙げられる。当国政府は2019年に、個人所得税による税収を更に6.8%，2020年には10.1%，そして2021年から2023年までは7.8%ずつ増加させる目標を立てた。（1月6日付 Tageblatt 紙）
- 欧州統計局（Eurostat）によれば、当国居住者は EU で2番目に交通にお金をかける。これは全消費の15.8%である（EU 平均は13.2%）。EU で最も交通にお金をかける国はスロベニア（16.9%）であり、当国はリトアニアと同割合で2位である。周辺国ではフランスは14.1%，ドイツが13.8%である一方でベルギーは11.4%と、5番目に少ない国となった。当国居住者が交通にかけるお金の割合は割と安定しており、1995年の15.4%からあまり変わっていない。（1月8日付 Luxembourg Times 紙及び RTL.lu 電子版）
- 当国国民健康保険（CNS: Caisse National de Sante）は、病休時の手当の支払い総額が2018年から2019年で47.2%増加したことを明らかにした。これは、2019年に法改正が行われ、104週間の内最大で78週間分の病休手当が支払われるようになった（2018年は最大で52週）こと、そして慢性的な病気など、長期にわたる治療が必要な疾患の場合は最大で18ヶ月分の給料が満額で支払われるようになったことが、増加につながったと考えられている。（1月14日付 Luxembourg Times 紙）
- 当国統計局（Statec）によれば、当国における求職者数は2019年末には16,532人となり、前年同期より1,346人増加（8.9%増）となった。これは、2018年

末における求職者数の激減の反動だと考えられる。非当国居住者で職業安定所 (ADEM) に登録しているのは 2, 382 人となり、2018 年末と比べると 9.6% の減少となった。

(1 月 20 日付 Luxembourg Times 紙)

● 当国中央銀行 (BCL) は、当国の 1 月の消費者信頼感指数は、2019 年 12 月と比べて 3 ポイント下がったこと、そして今後 12 ヶ月についての消費者信頼感指数も 4 ポイント低下したことを明らかにした。これは、当国の消費者の家具や家電製品等の「大きい買い物」に対する購買意欲が上がった一方で、それ以外の買い物に対する購買欲が下がったことに起因している。(1 月 30 日付 Luxembourg Times 紙)

2 政府等関連

● 当国は、自国の持続可能な目標 (green targets) を満たすために、2017 年と 2018 年で計 1, 650 万ユーロ相当の再生可能エネルギーをリトアニアとエストニアから購入した。2017 年 10 月に当国は両国と、2018 年から 2020 年の間に再生可能エネルギーを購入する合意を結んだ。両国から買い取った再生可能エネルギーは当国の再生可能エネルギーのおよそ 4 分の 1 を占めている。現在、当国の総エネルギー消費量のうち、再生可能エネルギーは 7.47% を占めているが、当国はこれを 2020 年までに 11% にまで増やす見込みである。(1 月 21 日付 Luxembourg Times 紙)

3 企業関連

● 当国フィンデル空港は、2009 年の 150 万人からその利用者が安定して増加してきたが、2019 年に 440 万人に達した。これは 2018 年から 9% 増となっている。利用者の増加は主に、新しい空路が開けたことによるものである。2019 年には、ブダペスト (ハンガリー)、マルセイユ (フランス)、トゥールーズ (フランス)、エジンバラ (英国) 等への直行便が開通された。2020 年には、Luxair 社は更に、ブリンディジ (イタリア)、フィレンツェ (イタリア)、モンペリエ (フランス)、ナント (フランス) に航空便をつなぐ予定である。また、Volotea 社はベネチア (イタリア)、アリカンテ (スペイン) との便をつなぐ予定である。(1 月 21 日付 Luxembourg Times 紙)

● 当国の航空貨物運行会社 Cargolux 社は、中国との直行便を週 23 便飛ばしており、そのうち 15 便は新型コロナウイルスの疾患が問題となりはじめた武漢市から 500 km 圏内にある鄭州行きである。上記ウイルスの拡散を受けて同社は、中国からの野生生物の運搬を停止したことを明らかにした。なお、当国保健省は、「旅行客によって当国にウイルスが持ち込まれる可能性は低い」としている。(1 月 29 日付 Luxembourg Times 紙)

※当国政府の公開資料や各種報道などの公開情報をとりまとめたもの。